

武蔵野市の課題はこちら!

緑町の無電柱化で「動脈道路」を守れ!

市役所前の市道17号線は、桜並木は美しいですが、災害の際のわが一の倒木による「裂断線」が心配です。都立中央公園は、災害時の「防災拠点」として、自衛隊の拠点となります。電線地中化は急務です。新クリーンセンターのコジェネ発電機能も、活かすことができます。

緑町1丁目「簡易宿泊所問題」

2020年オリパラの観光客宿泊所として、旅館業法に沿い、「簡易宿泊所」が開設される予定です。地元では、安全管理に不安の声が。民泊対策と共に、武蔵野市の課題です。

桜堤3丁目「街路灯の設置を急げ!」

地元の方々からは、かねてから街路灯設置の要望が出ています。日没の早い秋以降は、下校時にすでに真っ暗です。いよいよ設置の準備が整いました!

まだ道半ば!北町全体の治水対策を急げ!

地球温暖化によるゲリラ豪雨は年々激しさを増します。北町1丁目の浸水対策は4500㎡の貯留施設設置により改善しましたが、北町4丁目「わんぱく公園」「うさぎ山公園」エリアは、五日市街道の管路から逆流し、ポンプ汲みあげも厳しい状況です。

「福祉目的」の遺贈物件! 平井医院跡地等200坪の利活用!

ついに、平成30年度予算に「市有地活用に関する公民連携可能性の調査」(平成21年9月一般質問)の予算実現となりました!3/21(祝)(@東コミセン)公民連携説明会では、「子どもから高齢者まで集える小振りのテンミリオンハウス」との声がありました。いずれにせよ、医療機関が乏しくなった東町。医療・介護・看護・子育てを支える福祉拠点が期待されます。

都 女子大通り16m拡幅は必要なのか?

昭和37年都市計画決定していました。歩道はかねてから危険で課題です。16mの道路幅は必要でしょうか?

都 外環道路問題

地上部街路(外環の2)の行方が問われます。

桜堤3丁目の下水は近隣市との協議が必要!

近隣市へのポンプアップで、下水は処理をされています。が、管路が細いため、豪雨の際には床下浸水に見舞われます。取り急ぎ、雨水トレンチ・雨水ますで対応しましたが、広域連携協議と小金井公園への雨水浸透施設の埋設等根本的な取組が必要です。

「境駅前コミセン」を提言!(平成30年予算委員会)

武蔵境駅北口(境1丁目・2丁目)は、コミュニティ・センター空白エリアです。鉄道立体で南北一体となり、産学民公のまちづくりの拠点が必要で、今後子ども人口が増加するエリアだからこそ、「駅前学童保育」も複合化してはいかかでしょうか。

三鷹北口駐輪対策を急げ!

民間マンション開発のため、「三鷹北口自転車駐輪」が開鎖となりました。その結果、現在400台の通勤通学の方々がお困りです。今後の線馬区界のマンション開発も視野に入れ、検討を急げ!

都 水は命!都水一元化は喫緊の課題!

市は、平成9年、12年と東京都からの一元化の打診を断りました。現在、都と市の協議では、企業債、累積欠損金、老朽化施設の更新経費の負担等、未だ認識に隔りがあるとのこと。本管耐震整備率2.9%。災害に耐えられません。

都 武蔵野市の下水の7割はどこへ?

善福寺川への垂れ流しは、合流改善施設によって、28回に半減しました。が、そもそも、昭和44年の協議では、「落合処理場」は、「森ヶ崎処理場」ができるまでの暫定利用の約束でした。一体どうする?武蔵野市の下水!

視察の現場 地域と共に育つ「茶々保育園」—オトナな保育園

保育の質とは—すばり、事業者が志す「保育理念」と「子どもへの愛情」、「大人も子どもと共に生きる・育むの哲学」にあります。「地域と共に」をコンセプトに、地域のだれもが利用できる「カフェ」を、保育園に併設し、「地域で子育て」を実現しておられます。今回は、会派を超えて、7名の議員で視察をさせていただきました。

茶々保育園ホームページ <https://chacha.or.jp/>

夢の実現! ひつじ食堂 みんな de ごはん

今期のテーマは、「食育」です。子どもを応援したい事業者さんと、託児活動をしてきた団体の方々との思いから生まれた居場所です。子どもだけでなく、だれでも一人で食べるよりみんなで食べるほうがおいしいよね、がコンセプトです。

場所:三鷹北口キッチン「男の晩ごはん」(中町新道一つ目の交差点)
日時:6月9日(土)午後3時から6時
参加費:小学生100円、中学生200円、同伴者300円

深田 貴美子 ふかだ きみこ

【議会活動】平成19年武蔵野市議会議員初当選 ○平成23年2期改選 ○平成25年市長選惜敗 ○平成27年3期改選
【地域活動】本宿小学校PTA校外生活委員会、本宿地区青少協委員・元役員、日赤奉仕団元分団長、吉祥寺東コミュニティセンター運営協議会元委員
【学歴・職歴】●都立日比谷高等学校卒 ●東京女子大文学部社会学科卒 ●ロエベージャパン(株)財務部勤務 ●東京女子大大学院博士後期課程単位取得退学「子育て支援」「地域福祉」 ●「地域における子育て支援活動と情報ネットワーク—子育て支援NPO活動から」 ●法政大学大学院公共政策研究科博士後期課程を経て、比較バナンス研究科特任研究員在籍中
【家 族】夫(熊本産)子(広尾日赤産)猫(保護猫きーちゃん) 【特 技】弓道2段



武蔵野市議会議員
フカキミの

第32号

深田貴美子 《いっぽいっぽ通信》



今期もこつこつと、着実に公約実現!

「李下蹊径無し」(清廉潔白な人物には、賄賂を持って近づく人はいない「唐書」)—付度・改ざん・下話の話に明け暮れ、一方では、国会を長期に渡り欠席する。まさに、「青柿熟柿を吊う」(大して違いのない者が、他人のことをとやかく言う愚かさ)です。昨年は、生き残りのために、理念も信念もかなくなり捨て、周章狼狽する政治家の姿を見ることとなりました。スポーツ界では、大人のふるまいが、子どもたちの希望を閉ざすことがありました。市政も課題山積です。政治は、常に真実かどうか、みんなに公平か、みんなのためになるかどうかの視点で、理解と共感を深めていかなければなりません。深田貴美子は、これからも未来に向かって「完全無所属」で、みなさんと共に歩み続けます。

武蔵野市議会議員 深田貴美子

1 「防災情報システム」再検討!

平成20年2月一般質問

災害時の情報伝達は、初動体制および減災の要です。3・11発災後、全く機能せず、情報発信の妨げにもなりました。

2 「ICTコスト削減」実現!

平成21年6月一般質問

5年間で、4億1千万円のコスト削減実現です。が、根本的な問題は、サーバを市役所西棟に設置し、「自治体クラウド」を検討しないことです。

3 「吉祥寺」に開設! 病児病後児保育

平成19年9月一般質問

平成19年当時、武蔵野市には、「病後児」を預かってくださる病院が1件ありました。大事な会議がある日に限って、子どもは熱をだすんですね。要望を続け、10年かかりましたが、境・三鷹エリアに開設が進み、悲願の「吉祥寺エリア」本宿小学校南側JR高架下に、平成31年春に開設の運びとなりました! 認証保育所も併設され、地元にお顔が見える事業者さんの質実そろうた保育の実現です!

6 新・桜堤給食調理施設に「HACCP」(ハサップ)導入!

平成29年6月一般質問

「給食が足りない?!」(平成29年2月議会)での驚愕の行政報告に加えて、教育委員会は、国が制度化化する「HACCP」(食品製造の安全管理手法)の導入を失念していました。感染症・異物混入の無い、安全でおいしい給食を実現します!



5 「スマートシティ」いよいよ実装!

平成23年12月一般質問

新クリーンセンターで、ごみによる「バイオマス発電」を実現しました! さあ、健康・福祉・医療・子育て・教育・防災・まちづくりを、AI・IoTの新しい社会「Society5.0」に向かって、「武蔵野スマートシティ」へと!

4 UR都市再生機構「包括連携協定」締結!

平成29年3月一般質問

平成29年3月議会において、顕著に高齢化が進むUR桜堤サンヴァリエエリアに対し、URが推進する「誰もが安心して暮らせる24時間地域包括ケア」=「地域医療福祉拠点化事業導入」を提言しました。平成30年2月8日、「桜堤サンヴァリエ」「緑町パークタウン」を対象に、協定締結に至りました! サンヴァリエ、パークタウン共に、活発な自治会活動の歴史もあり、小中学校・保育所・高齢者施設・老人保健施設・障害者施設と、多様性と持続可能性を秘めたエリアです。武蔵野市の目指す「地域リハビリテーション」を、まずはエリアで実現してまいります!

保育・教育・医療に重大課題！未来に禍根を残す累々たる負の遺産！

1 事業者敗訴！東町住民エゴはデマでした！^{その1}

東町保育園事業者訴訟

原告請求棄却！

控訴せず判決確定！

待機児童対策は、施設開設の拡大と共に、安全を担保する「保育の質」が重要です。

「保育士の熱意や経験・スキル」「施設整備・食も含めた安全と衛生」「地域との信頼と連携」などに立ち現れてきますね。そのすべてを支える基盤が、運営事業者の「ゆるぎない保育の信念・理念」「こどもとその家庭への温かいまなざし」ではないでしょうか。

平成29年4月開園予定だった東町保育園事業に対し、近隣住民や地域の方々が、手続き等に懸念を持ち、「保育の質」を行政に問いました。それに対し、複数の議員が、地域を批判・誹謗中傷し、「保育園に反対する住民エゴ」などと意図的に報道され、あることが「訴訟」まで起こされた事件を、シリーズでご報告してまいります。

判決要点：平成30年3月26日

「原告が、被告による妨害行為と主張する各行為については、その事実が認められず、又は客観的に見て、行政の対応として不適切な行為とは言えないから、国家賠償法上違法と評価されるものではない」

加えて、事業者は、近隣住民を含む4名にも、2件の訴訟を起こしましたが、判決を受けて「取り下げ」をしました。

住民への訴訟では、事実と全く異なる、明らかに個人の名誉と人権を棄損する記述が連なっていたとのこと。

「認可保育園」の開設は、児童福祉法24条で自治体の責務です。当時、邑上守正前市長は、以下の答弁を繰り返していました。「現場(保育士)がしっかりしていれば、経営層に不安があっても問題ない」「住民の問題だ」この事件を教訓に、市には、厳格な開設審査と併せて、既設保育園の改善も求めてまいります。

次号に続く「国政そっくり？本当の責任の所在は。」

まずは、「当然の事業者敗訴」の概要です。

東京地裁立川支部に、武蔵野市を被告として提訴していた事業者による訴訟(平成28年11月25日)は、「原告請求棄却」の判決(平成30年3月26日)が下り、控訴無く判決が確定したと、文教委員会で行行政報告(平成30年5月16日)がありました。

結果資料は、右QRコードまたは下記URLから
<https://drive.google.com/open?id=1I6N8U5W4bAp7mDylaYKiD0tTPkvKnox>



この事件は、原告が、市議、市長以下職員から妨害を受けたことにより、保育園開設を断念することを余儀なくされたとし、国家賠償法第1条第1項に基づき、原告が被った3,339万197円等の支払いを求め、平成28年11月25日、東京地方裁判所立川支部に訴えを提起した事案です。

2 市民の増税を道連れにする

こちら、邑上市政の負の遺産です。

建替え困難な「吉祥寺南病院」建替え問題！

4月23日(金)議会代表者会議で、突然「吉祥寺南病院建替え経過報告」の資料と共に、副市長2名、都市整備部長、健康福祉部長等から説明がありました。示されたA案からD案の4案は、周辺住民の「容積緩和」を前提としたもので、資産価値が上がりますので、「固定資産税増額」は免れないのではないのでしょうか。

都市計画専門的知見からは、4案すべて建替え困難プランとの声がありました。事案発生から、すでに5年。稚拙な対応策に、疑念すらわいてきます。詳細資料は回収されたため、概要は以下の通りです。

- 1 吉祥寺南病院と森本病院が統合されたことから、経営的に180床は確保したい。
- 2 買い求めた旧前進地の用地は、井の頭通りから20mは、近隣商業地域であるが、以南は一低層が過半であるため、180床を担保するに足る容積が確保できない。
- 3 連担制度^{*}を活用し、南コミセンの未利用容積を、民間医療機関に移転することは、市有財産の毀損になると市は考えている。
- 4 したがって、①近隣商業用地の容積を緩和し、②病院周辺2haの近隣住民の住居用地の容積率・建ぺい率を見直し、容積を生み出す必要がある。
- 5 当然、私有地の資産価値が高まることから、「固定資産税の道連れ増額」は否めない。
- 6 東京都は、あたかも民間医療法人の容積緩和と見える用途変更を認めない。より広いエリアでの用途変更を望んでいる。



疑問！ why?

平成27年6月議会一般質問で提言したように、「近隣商業用地の容積を持つ南町コミュニティセンターの土地の売却や等価交換を検討すべき」ではないのでしょうか。にもかかわらず、1億6千万円予算で、昨年度センター内装改修を施しました。一体、市に医療再生のビジョンはあるのでしょうか???

^{*}連担建築物設計制度 既存の建築物を含む複数の敷地全体を一つの敷地(連担した敷地)とみなし、容積率や建蔽率の適用を可能にした制度。

3 もはや、政局！子どもたちの教育の未来を守れ！「武蔵野市小中一貫教育の行方」

深田が提言する

行政は、長いスパンで物事を考えますが、児童生徒ひとりひとりの一年は、その子にとって二度と無い貴重な一年です。しかも、この先10年間、就学児童生徒の人口が増加する中、少しでも早く、質の高い教育環境を整備することが責務だったはずで。

今回は、小学生にも中学生にも意見を聞きました。大変前向きな回答が多くありました。市および教育委員会は、児童生徒にも顛末の説明をする責任があります。

「武蔵野市教育委員会」は

今後60年間を見据えて、「小中学校施設一体型義務教育学校」を提案し、小中一貫教育をチームで対応することを目指していました。

- 1 学習指導要領が改定となり、小学校から「英語」「プログラミング教育」が必修となる。
- 2 反復学習が可能となり、児童生徒の学力が必ず向上する。
- 3 職員室を1つにすることで、児童生徒の情報共有とカリキュラム作成の質が高まること。
- 4 特別支援教育児童生徒に、切れ目のない学校支援体制が必ず作れること。

「武蔵野市小中一貫教育検討委員会」は

- 1 小中一貫教育については、さらに議論を深めること。
- 2 市民の間で意見が分かれる点(建て方、4・3・2制、一貫による閉塞感等)は慎重に分析、議論を深める。
- 3 施設については、「施設併設等」のプランも検討すること。

「総合教育会議」(5月1日開催)では

- 1 検討委員会の答申通り、議論を進める。
- 2 第6期長期計画に検討を委ねる。
- 3 そのために、市長部局と教育委員会の共管する「課題整理委員会」を設置する。
- 4 第五小、第五中の建替えは、耐震補強を行っているので、「第6期長期計画」の結論を待つ。

結論

結局、議論の先送りとなった。

原因

- 1 邑上前市長が、教育委員会とビジョンも具体的な建物容積等の情報共有を怠った。
- 2 市長と党議員らが、「小中一貫教育義務教育学校」は、「施設の統廃合・公共施設の床面積を減らすことが目的」とする一部の学識の持論を政治的に利用した。
- 3 邑上市長を継承する松下市長は、「小中一貫教育反対・慎重」との意思を示していた。

疑問

反対される方々は、対案をなぜ提示されないのでしょうか。議論を先送りにするならば、松下市長は、教育改革に取り組む教育長を、なぜ慰留せず、なぜご自身の教育観を「総合教育会議」でも述べないのでしょうか。

深田の提言！

深田貴美子は、コミュニティスクールを基盤とした「小中一貫教育施設併設型多機能学校」を提言しています。将来的な人口減少を踏まえ、空きスペースを活用し、「地域福祉機能」(保育・高齢者デイ・健康相談機能等)を複合化し、地域と共に、子どもも大人も育つ、学校を地域の拠点とすべきです。広々とした校庭はもちろんです！

自校式給食調理施設も、災害時の災害拠点で役立ちます。武蔵野の歴史と文化を育んだコミュニティの伝統を、「米百俵」の精神で、地域のみなさまと共に、「コミュニティの創生」と「未来にはばたく人材育成」こそ、武蔵野市の持続可能な開発目標と考えます。

コミュニティスクール 小中一貫教育施設併設型多機能学校はコレ！

